

## II 調査結果の概要

### 1 観光客の概況

#### (1) 総観光客数

##### ① 平成19年の総観光客数

単位：万人，%

区分	H19	H18	対前年増減	対前年比	H14	対H14年比
総観光客数	5,761	5,799	▲38	▲0.7	5,061	13.8

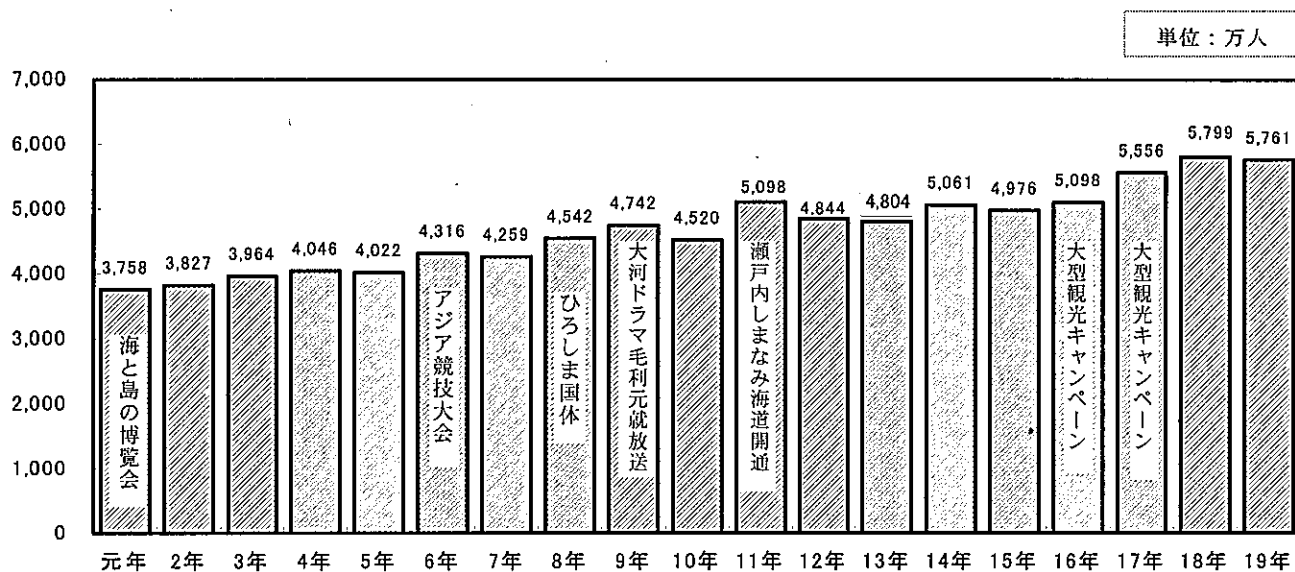
平成19年の総観光客数は、5,761万人で、平成18年と比べて38万人（0.7%）減少した。

主な要因としては、平成17年から18年にかけて実施された映画「男たちの大和/YAMATO」ロケセットの一般公開の終了等により、尾道市の観光客数が約10.0万人減少したことなどが挙げられる。

##### ② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成元年以降ほぼ順調に推移し、「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成11年には、はじめて5,000万人を上回った。また、平成16～18年と、3年連続して過去最高を更新し、平成19年は微減したものの、概ね堅調に推移している。

総観光客数の推移



単位：万人，%

区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
総観光客数	3,758	3,827	3,964	4,046	4,022	4,316	4,259	4,542	4,742	4,520	5,098	4,844	4,804	5,061	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761
対前年比	113.2	101.8	103.6	102.1	99.4	107.3	98.7	106.7	104.4	95.3	112.8	95.0	99.2	105.4	98.3	102.5	109.0	104.4	99.3
元年基準の指数	100	101.8	105.5	107.7	107.0	114.8	113.3	120.9	126.2	120.3	135.6	128.9	127.8	134.7	132.4	135.7	147.8	154.3	153.3

(2) 地区別観光客の状況

① 市町別総観光客数の状況

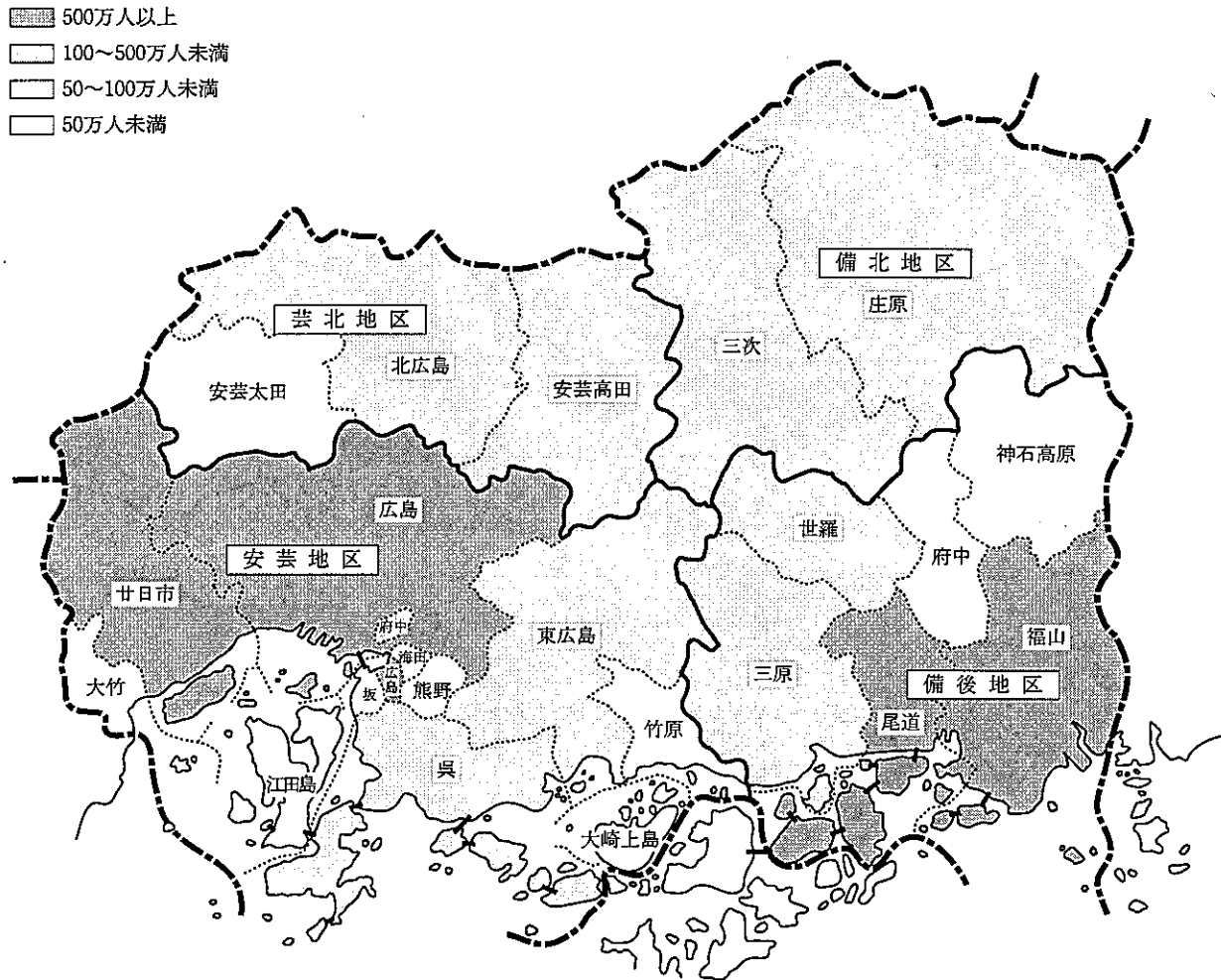
区 分	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市, 福山市, 廿日市市	尾道市
100～500 万人未満	9 市町	三次市, 東広島市, 三原市, 世羅町	呉市, 庄原市, 北広島町, 安芸高田市, 府中市
50～100 万人未満	6 市町	竹原市	府中市, 神石高原町, 安芸太田町, 坂町, 江田島市
50 万人未満	4 市町	大竹市	海田町, 熊野町, 大崎上島町

総観光客数を市町別に見ると、広島市、福山市、廿日市市、尾道市、呉市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、総観光客数が多いことがわかる。

なお、前年に比べて総観光客数が増加した市町は 9、減少した市町は 14 である。

総観光客数の市町別状況（平成 19 年）

（平成 19 年 12 月 31 日現在）



② 市町別総観光客数の順位

市町別の総観光客数の上位10市町は、次のとおりである。

単位：千人，%

順位	市町名	H19	H18	対前年増減	対前年比	前年順位	H14	対H14年比
1位	広島市	11,710	11,327	383	3.4	1位	10,616	10.3
2位	福山市	6,286	6,234	52	0.8	3位	5,903	6.5
3位	廿日市市	5,619	5,383	236	4.4	4位	4,894	14.8
4位	尾道市	5,522	6,551	▲1,029	▲15.7	2位	5,142	7.4
5位	呉市	4,754	4,948	▲194	▲3.9	5位	4,688	1.4
6位	三次市	3,100	2,852	248	8.7	6位	2,223	39.5
7位	庄原市	2,608	2,715	▲107	▲3.9	7位	2,535	2.9
8位	東広島市	2,584	2,345	239	10.2	8位	2,250	14.8
9位	北広島町	2,250	2,252	▲2	▲0.1	9位	2,034	10.6
10位	三原市	2,156	2,050	106	5.2	11位	1,983	8.7

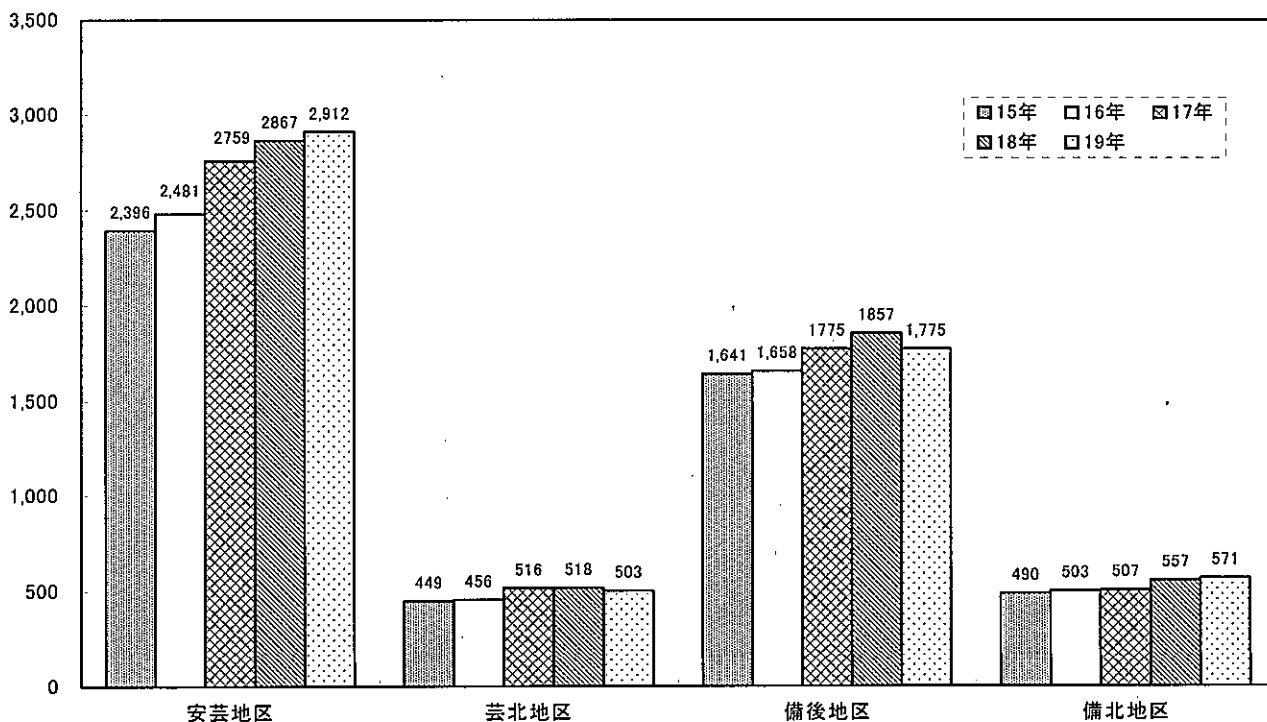
上位10市町の中では、東広島市が239千人増加して2桁（10.2%）増となったが、尾道市は1,029千人（▲15.7%）の大幅減となった。

③ 地区別総観光客数の状況

地区別では、安芸地区が45万人（1.6%）、備北地区は14万人（2.5%）増加したが、芸北地区は15万人（▲2.9%）、備後地区は82万人（▲4.4%）の減となった。

地区別総観光客数の状況

単位：万人



(3) 発地別観光客の状況

① 県内・県外観光客

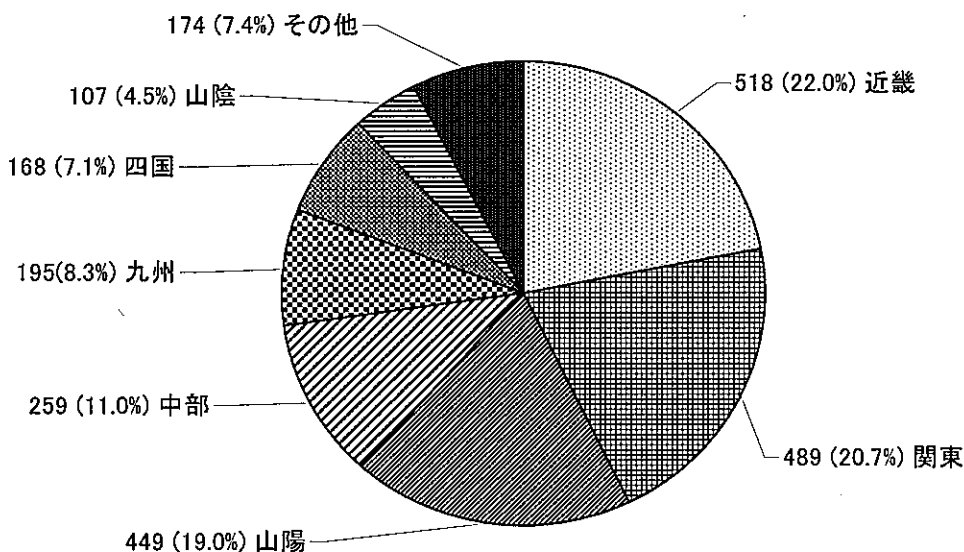
単位：万人，%

区分	H19	H19構成比	H18	対前年増減	対前年比	H14	H14構成比	対H14年比
県内	3,402	59.1	3,378	24	0.7	3,013	59.5	12.9
県外	2,359	40.9	2,421	▲62	▲2.6	2,048	40.5	15.2

県外観光客数のうち、発地別では「近畿地方」22.0%、「関東地方」20.7%、「山陽地方」19.0%、「中部地方」11.0%、「九州地方」8.3%、「四国地方」7.1%、「山陰地方」4.5%の順になっている。

発地別県外観光客数の割合

単位：万人

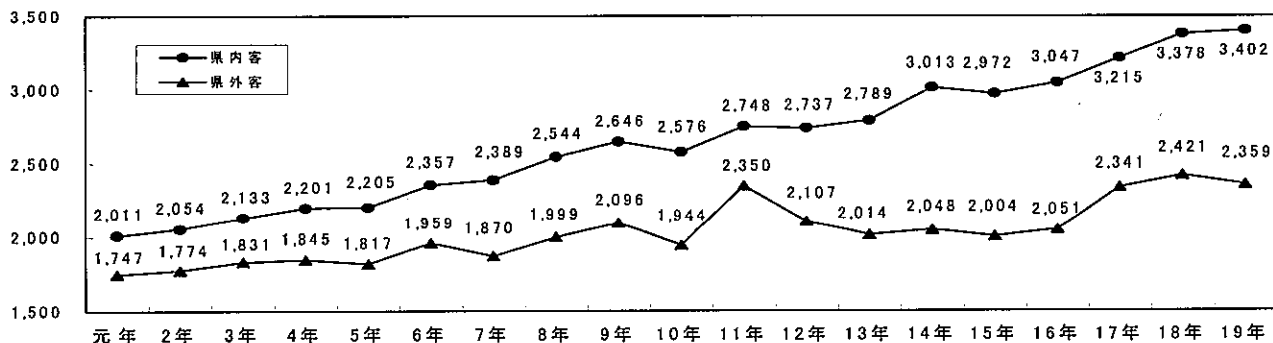


② 総観光客数に占める県内・県外観光客の推移

県外観光客数は平成11年以降、9年連続して2,000万人を超えている。また、県内観光客（地元観光客を含む）数も、4年連続3,000万人を超えている。

総観光客数に占める県内・県外観光客の推移

単位：万人



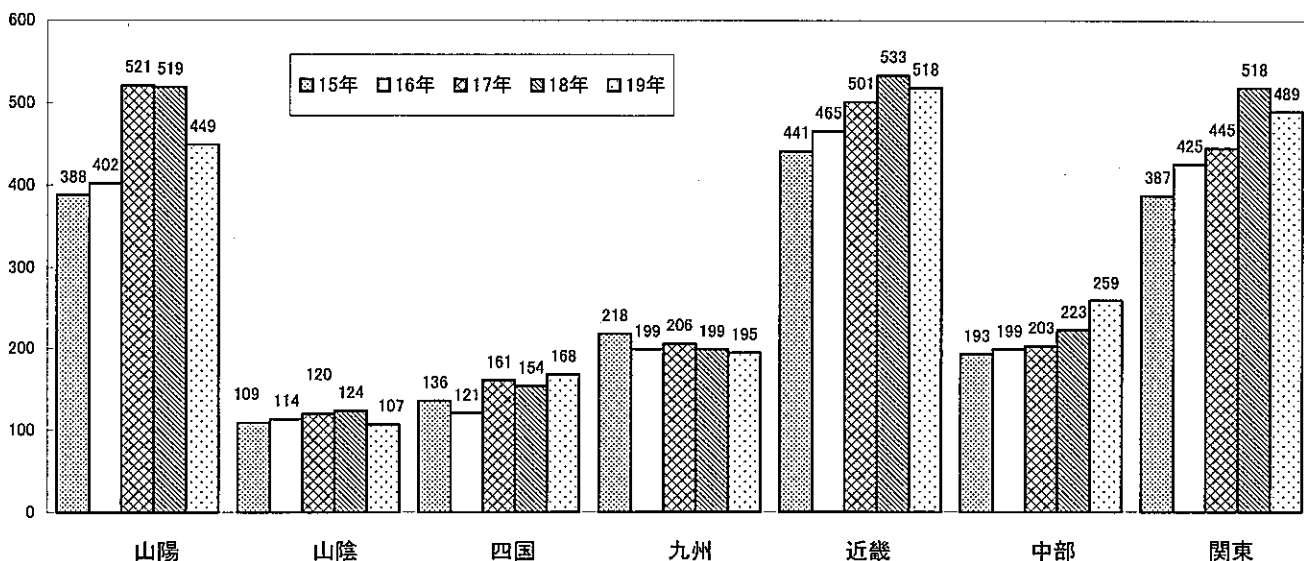
③ 県外観光客の発地別状況

来県する観光客数の多い地方は、「近畿地方」518万人、「関東地方」489万人、「山陽地方」449万人の順である。

前年と比べた場合、「中部地方」からは36万人、「四国地方」からは14万人の増加となっているが、その他の地方は減少している。

主な発地別県外観光客の推移

単位：万人

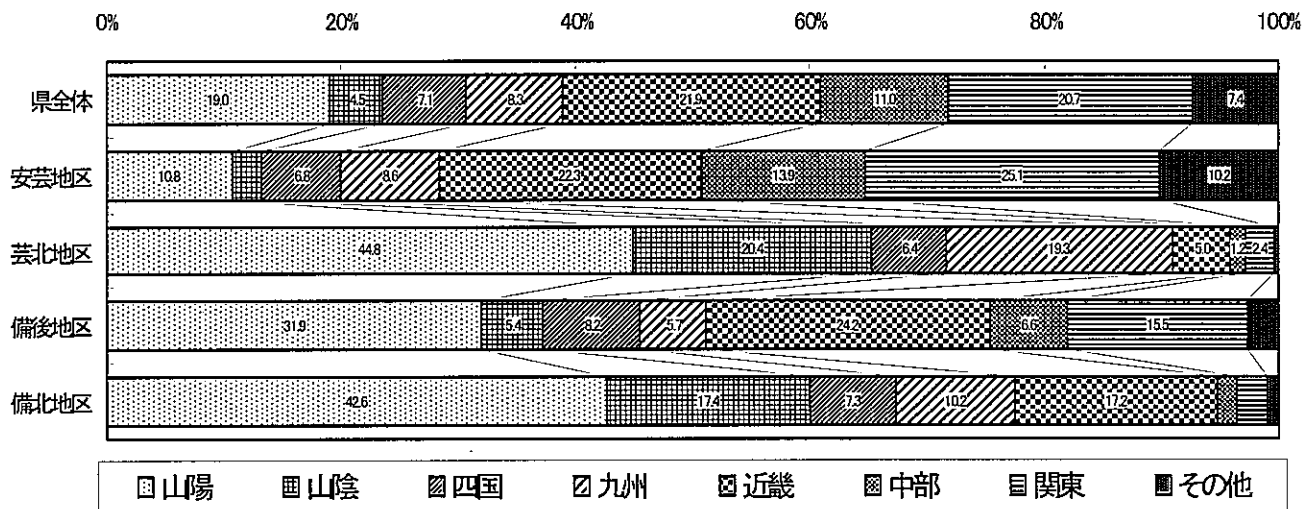


④ 地区別発地別県外観光客の状況

安芸地区は「関東、近畿、中部地方」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地区は「山陽、山陰、九州地方」から、備後地区は「山陽、近畿、関東地方」から、備北地区は「山陽、山陰、近畿地方」からの観光客が高い割合を占めている。

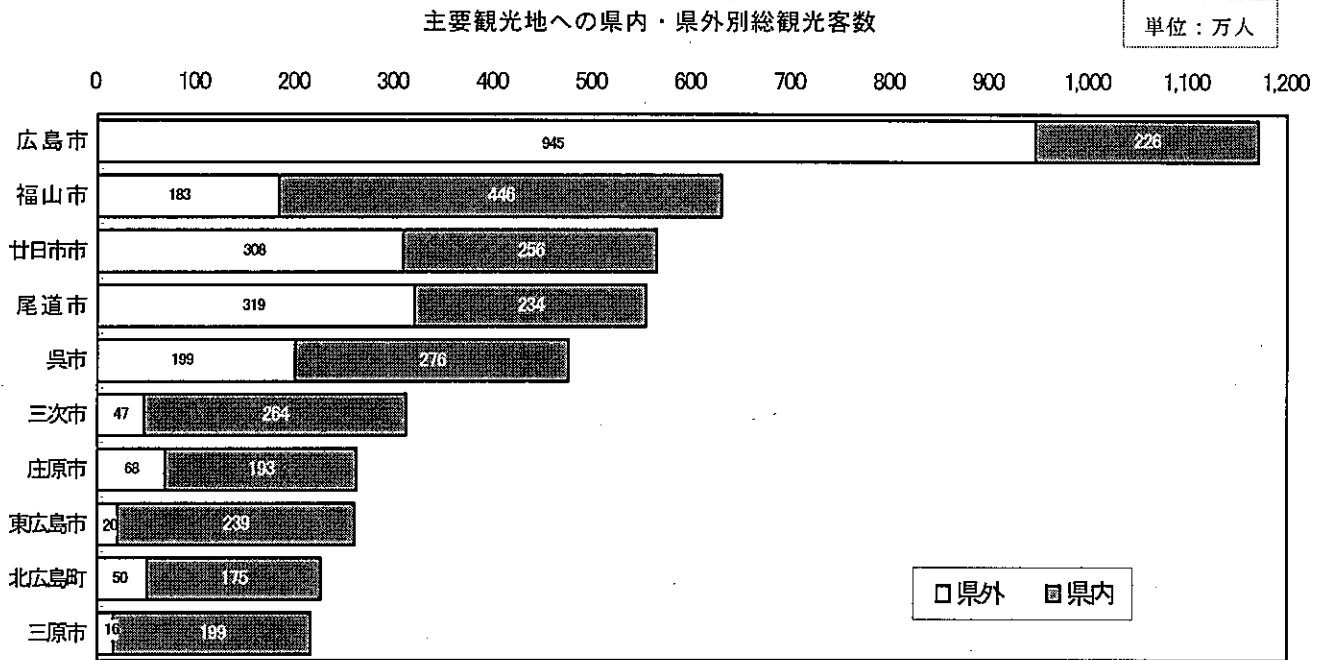
県内各地区への県外観光客の発地別割合

単位：%



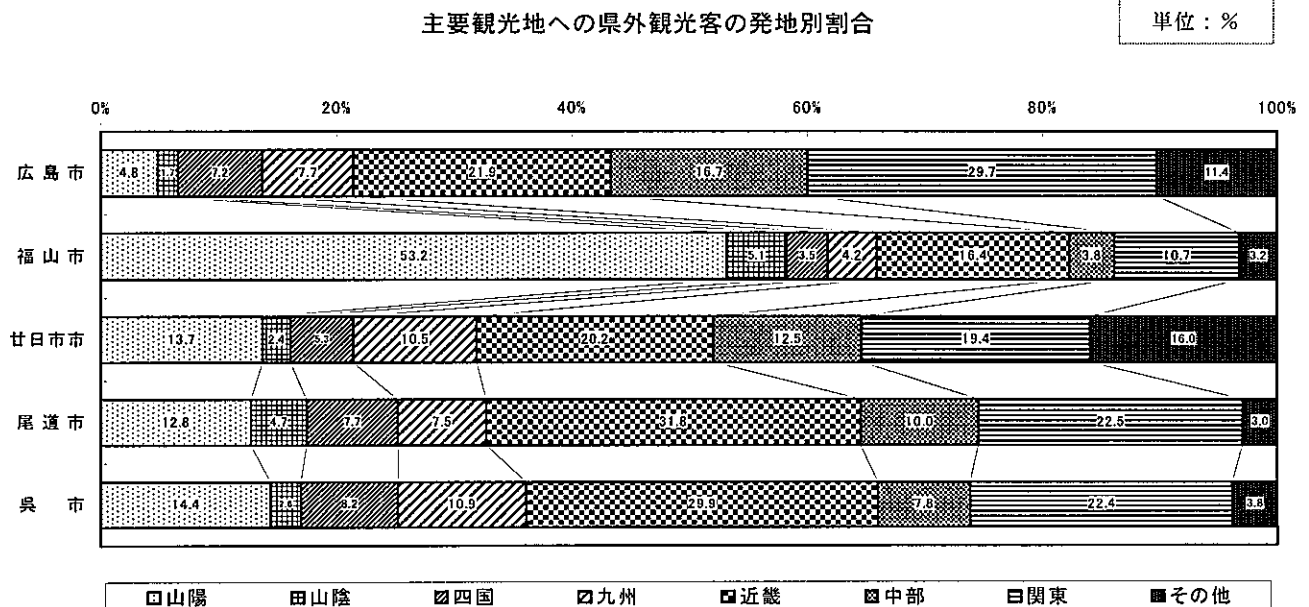
⑤ 県外観光客の主な発地別状況

観光客数の上位10市のうち、県外客の比率が県全体の平均40.9%を上回っているのは、広島市(80.7%)、尾道市(57.7%)、廿日市市(54.6%)、呉市(41.9%)の4市であった。



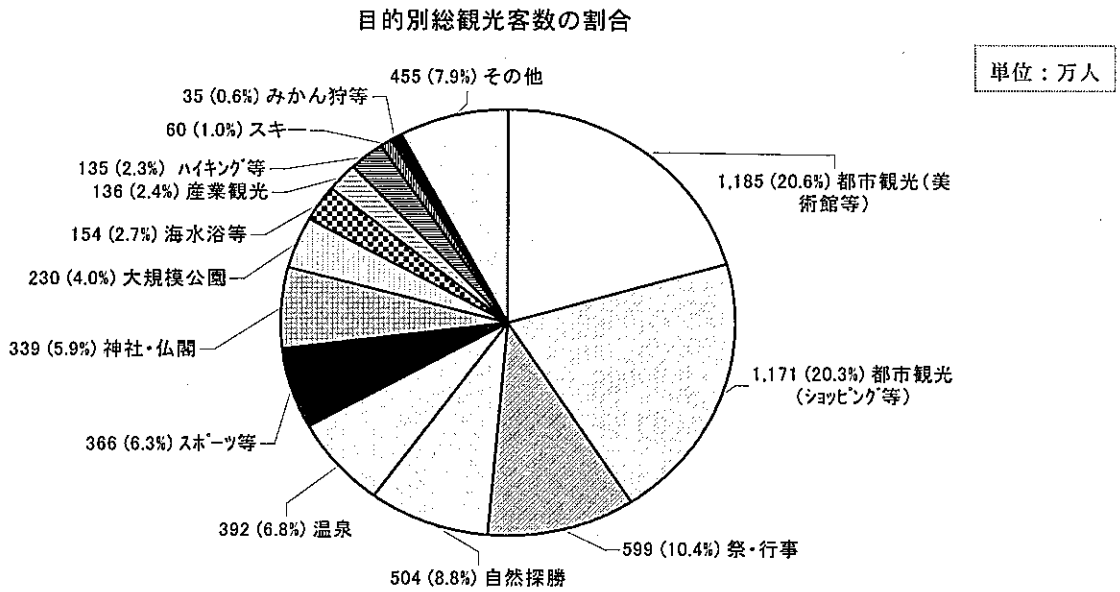
⑥ 主要観光地への県外観光客の発地別状況

県外からの観光客数が多い上位5市を見ると、広島市、廿日市市、尾道市、呉市は「関東、近畿地方」の大都市圏から、福山市については「山陽地方」など近隣県からの観光客が高い割合を占めている。



(4) 目的別観光客の状況

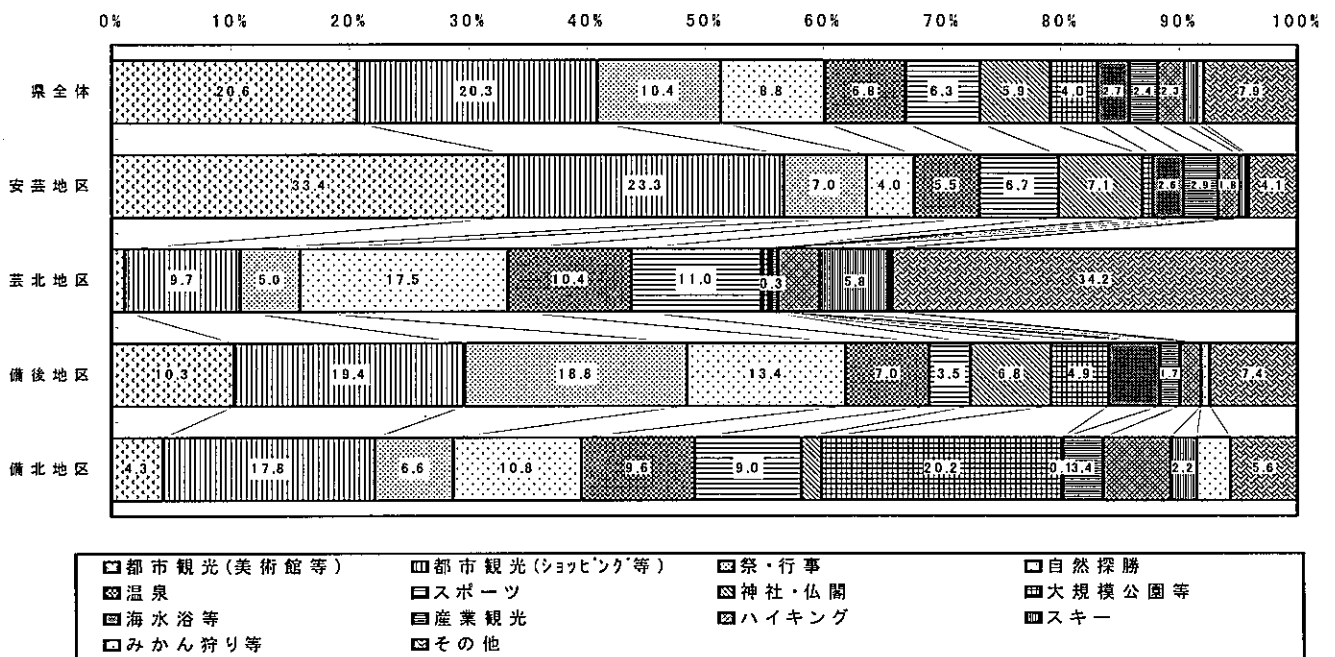
目的別では、「都市観光」が40.9%と最も高く（うち「美術館等」が20.6%、「ショッピング等」が20.3%）、次いで「祭・行事」の10.4%、「自然探勝」の8.8%となっている。



(注) 都市観光：都市を見たり、都市で学ぶことを目的としたもの  
 美術館等：美術館、博物館、動・植物園、水族館等  
 ショッピング等：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等  
 産業観光：工場見学、特産品づくりを目的としたもの

次に、地区別に目的別観光客の割合を見ると、安芸地区では「都市観光」が圧倒的に多く、芸北地区では「自然探勝」、備後地区では「都市観光」と「祭・行事」、備北地区では「大規模公園等」と「都市観光」が高い割合となっている。

地区別目的別総観光客数の割合



(5) 旅行形態別観光客の状況

① 日帰り客・宿泊客の状況

観光客数のうち日帰り客数は5,010万人(87.0%), 宿泊客は751万人(13.0%)となっており、宿泊客が750万人を超えたのは平成9年以来10年ぶりである。

② 地区別日帰り客・宿泊客の状況

日帰り客を地区別にみると、安芸地区2,402万人、備後地区1,591万人、備北地区526万人、芸北地区491万人の順になっている。

また、宿泊客は、安芸地区510万人が県全体の7割近く(67.9%)を占めており、次いで備後地区184万人、備北地区45万人、芸北地区12万人の順になっている。

③ 一般客・団体客・修学旅行客の状況

観光客数を一般客、団体客、修学旅行客別にみると、一般客が4,844万人と最も多く全体の84.1%を占めている。なお、団体客は860万人、修学旅行客は56万人となっている。

(注) 団体客：10人以上の団体旅行客、一般客：団体客、修学旅行客以外の旅行客

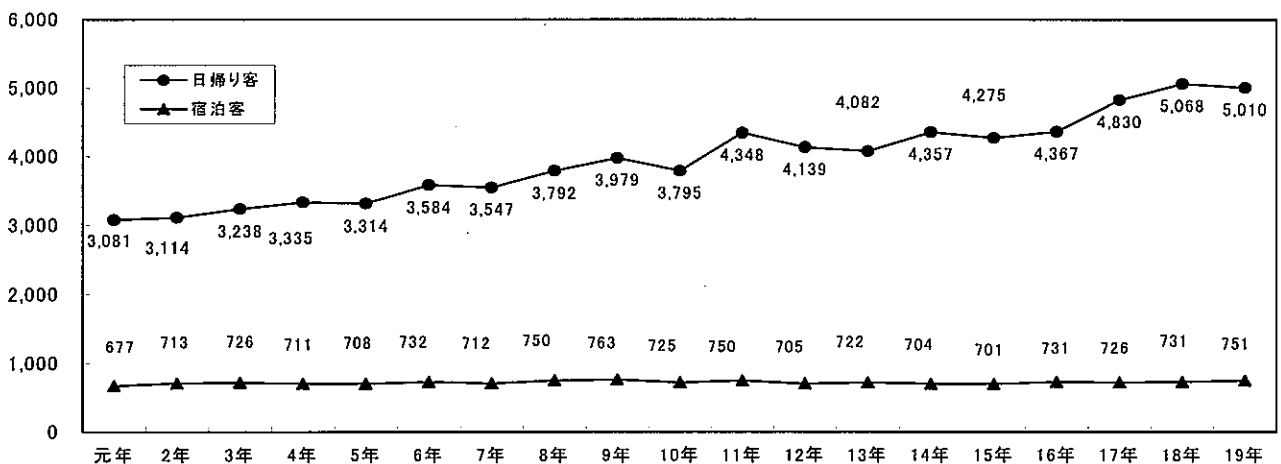
地区別旅行形態別総観光客数

単位：万人、%

区分	日帰り・宿泊客の別				一般・団体・修学旅行の別					
	日帰り		宿泊		一般客		団体客		修学旅行	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
安芸地区	2,402	82.5	510	17.5	2,358	80.9	503	17.3	52.1	1.8
芸北地区	491	97.6	12	2.4	454	90.3	49	9.7	0	0
備後地区	1,591	89.6	184	10.4	1,549	87.3	223	12.6	2.1	0.1
備北地区	526	92.3	45	7.7	483	84.8	85	14.9	2.1	0.3
広島県全体	5,010	87.0	751	13.0	4,844	84.1	860	14.9	56.3	1.0

宿泊客数の推移

単位：万人

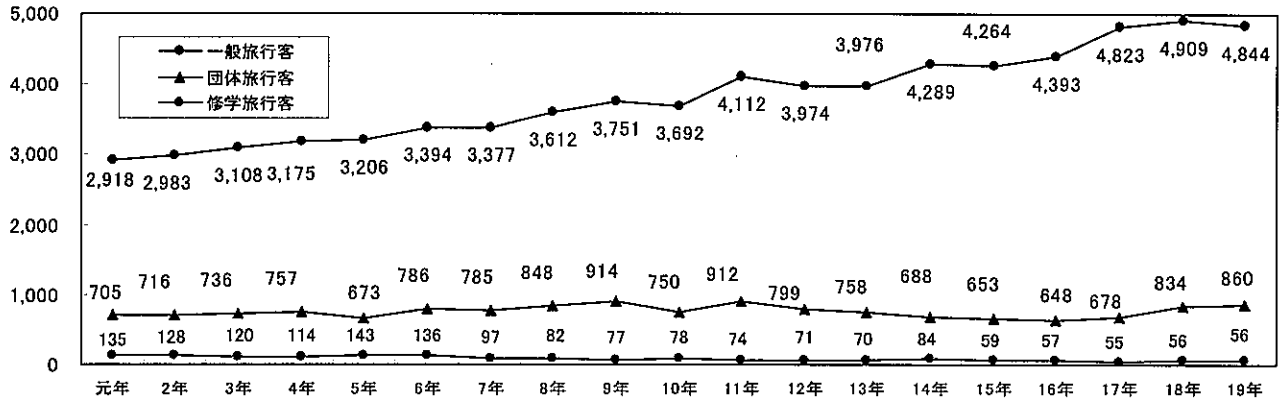


※ 平成18年調査から、本県の観光客数統計の代表数値を従前の「入込観光客数」から「総観光客数」に変更したため、元年まで遡って推計値に置き換えた。



旅行形態別観光客数の推移

単位：万人



※ 平成18年調査から、本県の観光客数統計の代表数値を従前の「入込観光客数」から「総観光客数」に変更したため、元年まで遡って推計値に置き換えた。

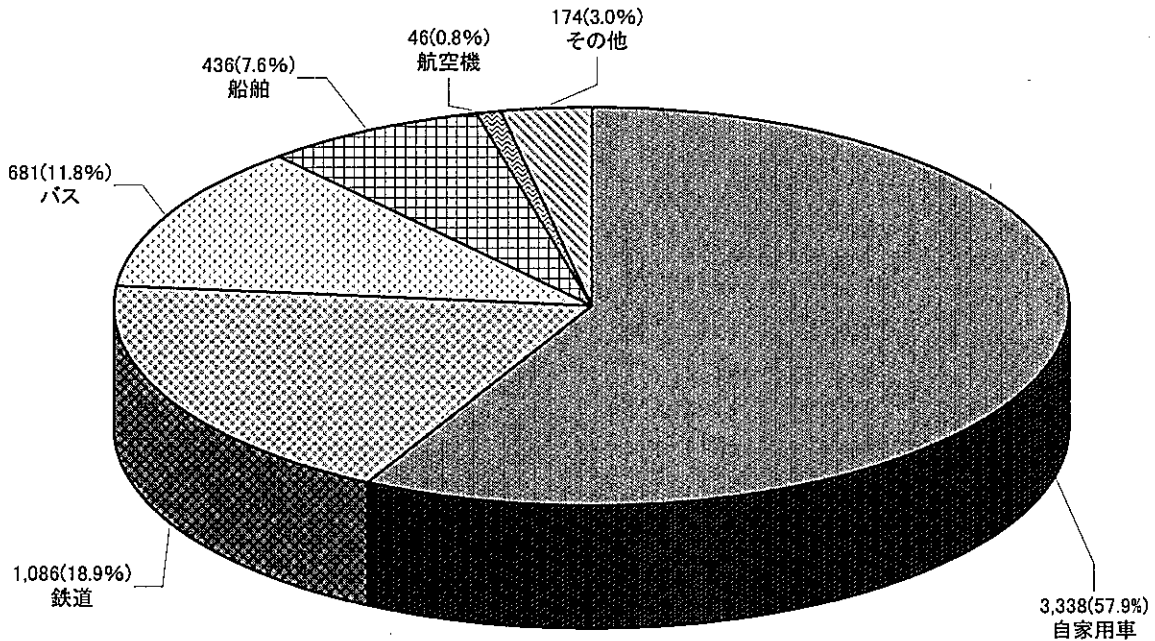
(6) 交通機関別総観光客の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車を利用したいわゆる「マイカー客」が、3,338万人（前年比0.18%減）と最も多く、マイカー客は観光客全体の57.9%を占めている。

また、鉄道利用者は1,086万人（前年比1.31%増）、バス利用者は681万人（前年比7.35%減）となっている。

交通機関別総観光客の割合

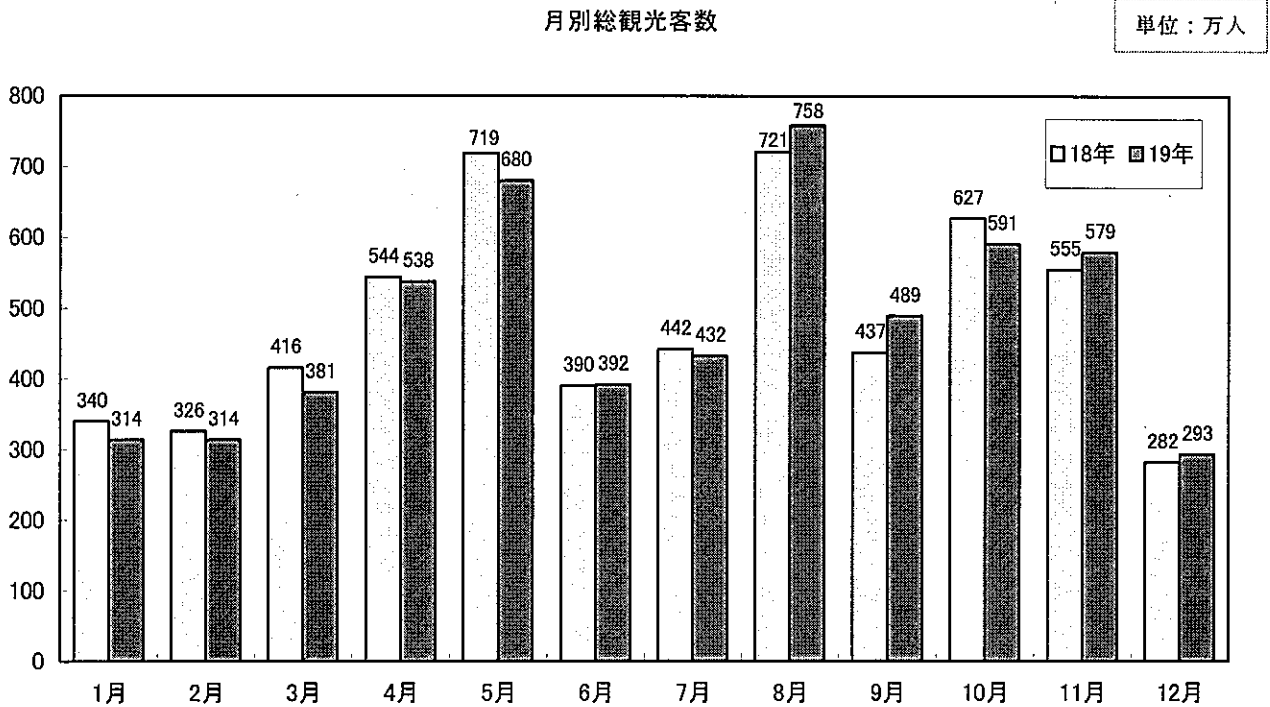
単位：万人



(7) 月別・季節別観光客の状況

① 月別総観光客数の状況

月別に見ると、最も観光客が多かったのは、8月の758万人、次いで5月の680万人、10月の591万人、11月の579万人となっている。



② 地区別・季節別総観光客数の状況

季節別に見ると、安芸地区、芸北地区、備北地区においては、秋に観光客が最も多くなっている。また、備後地区においては花のシーズンである春に観光客が多くなっている。

